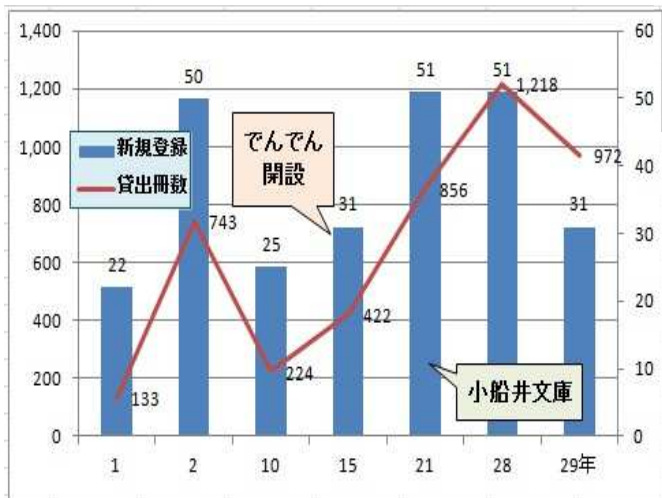


# 年貸し出し 1000 冊に 地域開放 30 年

## 釧路短期大学附属図書館 ニュースレター 2016 01. No2



昭和 62 年 4 月から取り組んだ附属図書館の地域開放は、開始後 27 年の平成 24 年度から、年間蔵書貸出し数が一〇〇冊を超えるようになりしました。

附属図書館の地域開放は、本学卒業生の強い要望によるもので、根強い人気。「絵本とおはなしの部屋」「でんでん」開設や、「小船井文庫」創設後、貸出し数も増加しています。

### 先輩が読んだ、この一冊

猪谷千香著『つながる図書館：コミュニティの核をめざす試み』（ちくま新書 2014 年）

無料貸本屋と言われていた図書館。日本の公共図書館は、変わりつつあります。現在の日本では、24 時間貸出しが可能、自動貸出機があるところもあります。また、ビジネスや法律の相談もできます。

公共図書館が地域の中心の所も多いようで、街を豊かにする可能性を秘めた図書館。その全貌が書いていました。

私が注目したのは、島を丸ごと図書館にした島根県海士町です。島根には、図書館がありませんでした。あるのは、学校図書館です。

ですが、どこも図書室として機能していません。そこへ、司書の資格はあったものの、大学卒業後は関西で図書館とは無関係の仕事に就いていた磯谷奈緒子さんが、やってきて変わりました。

島を丸ごと図書館にする構想は成功しました。『立派な施設環境がなくても、最低限の本と本を活かし、つなげる人が居れば図書館サービスは提供できる』という心得で、成功したのです。

この本を読んだ感想です。やはり図書館というのは、利用者の年齢を選ばない無料で使える良い場所だなと思いました。

私が住んでいる釧路は、図書館がまんべんなくあって、いいなと思います。図書館は、本を借りるだけではなく、スポーツが出来る場所もあったりして、ますます使いやすい場所へと変わってきています。

私たちが生きていく中で、さらに図書館は変化していくことでしょう。

(優 20150105 生活科学専攻 2 年)

### 知で地域づくり in 釧路

10 月 17 日に開かれた文字活字文化推進機構主催の〈全国リレーシンポジウム〉から生活科学専攻の学生 10 名、附属図書館職員も三名が出席しています。

作家の阿刀田高さんは、発言のむすびで、次のように語りました。

「図書館にとつてたいせつなことは第一に〈ヒト〉、第二に〈ホン〉、第三に〈建物〉です。シンポジウムを聞いたおよそ二五〇人の参加者を、納得させてくれました。」

